

■ 教育目的

病院薬剤師としての就業体験を通じ、業務と責任を理解し、チーム医療に参画すると共に薬物療法の責任の一端を担うことができるようになるために、標準実習で習得した薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度をさらに発展させることで問題解決型の学習を行うことを目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～⑥】

■ 学習到達目標

1. 患者に最善の医療を提供するために、調剤、医薬品の適正な使用ならびにリスクマネジメントに関連する基本的知識、技術、態度を習得する。(知識・技能・態度)
2. 医薬品を正確かつ円滑に供給し、その品質を確保するために、医薬品の管理、供給、保存に必要な基本的知識、技能、態度を習得する。(知識・技能・態度)
3. 医薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、医薬品情報管理業務に必要な基本的知識、技能、態度を習得する。(知識・技能・態度)
4. 患者に有効性と安全性の高い薬物治療を提供するために、病棟業務の基本的知識、技能、態度を習得する。(知識・技能・態度)
5. 患者個々の状況に応じた適切な剤形の医薬品を提供するため、院内製剤の必要性を認識し、院内製剤の調製ならびにそれらの試験に必要とされる基本的知識、技能、態度を習得する。(知識・技能・態度)
6. 常に患者の存在を念頭におき、倫理観を持ち、かつ責任感のある薬剤師となるために、医療の担い手としてふさわしい態度を習得する。(態度)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：今まで勉強し、学んできた知識を体系化できるよう全教科にわたって復習しておく(20分以上)。

復習：当日学んだこと、体験したことを思い起こし、反省すべき点を見出し、改善策を考える(30分以上)。

■ 授業形態

課題解決型学習、課題解決型学習（外部機関との連携あり）、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1	事前学習	オリエンテーション、病院薬学コース実習前に薬物治療に関する一般的なアプローチを理解する	F(3)
2	実習、演習	病院実務実習を基礎とし、病棟での活動を中心にアドバンスド実習を13週間行う。毎週大学で症例演習ゼミを行い、薬物治療についてディスカッションする。医療現場の第一線で活躍されている先生方による特別講演会、多職種連携教育に参加する。	F(2)～(4)
3	事後学習	症例報告会	F(3)

■ 授業分担者

大野 恵子、小林 カオル、榎山 暁史、花田 和彦、山谷 明正、町田 いづみ、野澤 玲子、安 武夫、松本 靖彦、杉 富行、鈴木 陽介、高橋 雅弘、永井 純子、小田 絢子、渡辺 史也

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

定期的な面談及びゼミにおいて随時フィードバックを行う。

病院実習(50%、指導薬剤師による所見・評価)、症例報告会(40%、ルーブリック評価)、面談・実習記録・症例ゼミ・特別講演会・多職種連携教育(10%、担当者による所見・評価)により総合的に判定する。

■ 参考書

治療薬マニュアル(医学書院)、今日の治療薬(南江堂)、Pharmacotherapy: A Pathophysiologic Approach, 12th ed. 等